

# もっと安心農産物 ねぎ(秋冬どり)栽培暦(令和6年)

JA ちばみどり 海上野菜組合産直部

## 1. 土づくり

完熟堆肥、または緑肥を施用し、土づくりを行う。土壌診断を実施し、適正施肥を行う。

## 2. 施肥 ☆施肥診断にもとづく施肥量の遵守 化学肥料窒素成分使用量13kg/10a以下

	肥料名	保証成分(%)	施肥量
基肥	① マイルドユーキ 030 号 または	10-13-10(有機態窒素 5.3)	130kg/10a (化成由来N 6.11kg)
	② エコレット866	8-6-6 (有機態窒素 4.1)	160kg/10a (化成由来N 6.24kg)
	苦土石灰		80kg/10a
追肥	① マイルドユーキ 030 号 または	10-13-10(有機態窒素 5.3) 20kgあたりの化成由来N 0.94kg	最大130kg/10a まで追肥可能 (化成由来N 6.11kg)
	② エコレット866	8-6-6 (有機態窒素 4.1) 20kgあたりの化成由来N 0.78kg	最大160kg/10a まで追肥可能 (化成由来N 6.24kg)

基肥・追肥は①または②を選択し、化成Nの合計が13kg/10aを超えないよう注意しましょう。

## 3. 防除 化学合成農薬 18成分回数まで(苗購入の場合16成分回数まで)

(Zボルドー・スピノエース顆粒水和剤は化学合成農薬に含めない)

月	管理作業	病虫害の発生推移	薬剤名	希釈倍数・処理量	対象病虫害	備考 (耕種的防除の実施等)
4月上旬	播種	↑ ベト病・さび病・ ネキリムシ ネギアザミウマ ・ ネギハモグリバエ ・ ヨトウムシ類 ↓ 軟腐病 ・ 黒斑病 ↓	バリダシン液剤5	400倍 苗床灌注	苗立枯病(リゾクトニア菌)	圃場周辺の除草を実施し、雑草、害虫の発生を低減させる。
中旬			カルホス微粒剤F	6kg/10a 播種時	ネキリムシ類 土壌表面散布 土壌混和处理	
下旬						
5月上旬						
中旬	定植		スタークル顆粒水溶剤	50倍 苗床灌注	アザミウマ類 ハモグリバエ類 シロイチモジヨトウ	
			トリフミン水和剤	200倍 苗床灌注	萎凋病	
下旬						
6月上旬			ストロビーフロアブル	2000倍	さび病・黒斑病	
			コルト顆粒水和剤	2000倍	ネギアザミウマ	
中旬	追肥 土寄せ		オリゼメート粒剤	6kg/10a	軟腐病	
		モンカット粒剤	4~6kg/10a	白絹病		
下旬		スターナ水和剤	2000倍	軟腐病		
7月上旬		スピノエース顆粒水和剤	2500~ 5000倍	アザミウマ類		
中旬						

下旬					アザミウマ類 ネギハモグリバエ	土壌病害回避のため夏場は極力土寄せ作業を控える
8月上旬	追肥・土寄せ	軟腐病・白絹病 ↑ ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ ヨトウムシ類 ↓	ベストガード粒剤	6 kg/10a 株元散布		
中旬			ユニフォーム粒剤	9kg/10a	べと病・さび病 白絹病	台風が通過した場合は軟腐病の防除を追加実施する
下旬	追肥・土寄せ		ベネビアOD	2000 倍	アザミウマ類 シロイチモジヨトウ ハモグリバエ類	
9月上旬			アミスター20フロアブル	2000 倍	さび病・べと病・葉枯病・黒斑病	
中旬	追肥・土寄せ		ディアナSC	2500~5000 倍	アザミウマ類 シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ	
下旬			モンガリット粒剤	6kg/10a	黒腐菌核病 白絹病	
10月上旬	追肥・土寄せ		セイビアーフロアブル 20	1000 倍	小菌核腐敗病 黒腐菌核病	
中旬						
下旬	追肥止め土					
11月上旬	収穫開始					
中旬						
下旬						
12月上旬						
中旬						
下旬						
1月上旬						
中旬						
下旬						
2月上旬						
中旬						
下旬						